



エルム第43号

発行/特定医療法人  
北榆会 札幌北榆病院  
編集/広報委員会  
責任者/玉置 透  
発行日/平成22年11月1日

## 施設課からお知らせ

本年度は設備充実の一環として夏は全病室冷房の工事を行いました。

また、冬に向け給湯、暖房用ボイラーを入れ替えました。

北海道の建物は、しっかりした暖房設備が当たり前で気がつくことがありません。

でもこのボイラーは50メートルのオリンピックプールのお風呂を毎日沸かすことができる発熱量です。縁の下の力持ちです。

なお、当院では年2回防災訓練を行っています。おおむね春は昼間、秋は夜間の出火を想定して訓練を行います。

実際に火災が発生しないことが一番大切ですが、訓練を重ねることで被害が最小限になるように努めます。

なお、当院は全ての部屋にスプリンクラーが設置されています。

耐火構造のため瞬く間に全館に延焼するような火災に発展することはありませんが、万が一の場合は職員が誘導いたしますので落ち着いて行動してくださいませようお願いします。

## イベントが開催されました

「病気で入院」をすると普段の生活と違うため身体も心も塞ぎがちになります。

そこで当院では時々、様々なイベントを催しています。少しでも癒やされれば幸いです。

10月に開かれたイベントの様子は本文8ページをご覧ください。

企画をする総務課のスタッフはこのような催しに対して、ご意見やご希望をお待ちしています。10ページに「院内ご意見箱」のご案内があります。どうぞ投書でもご意見をお寄せください。

## 米川元樹理事長

### 北海道医師会賞を受賞しました

北海道医師会では毎年医学研究ならびに医事衛生に優秀な業績を挙げた会員に北海道医師会賞を贈っています。

このたび当院理事長米川元樹医師（外科）が「アフェレシスの適応拡大と治療機器の開発」の研究成果に対しこの賞を受けました。

## 札幌北榆病院基本方針

- 1：患者さんに公正な医療を提供します。
- 2：患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
- 3：患者さんの安全を保障し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 4：高度医療を積極的に推し進めます

## 病院紹介シリーズ (1)

## 腎臓内科



腎臓は尿を作って排泄することで体の水分のバランス、電解質のバランス等を保つ臓器です。腎臓の機能が失われるとこれらを維持することができなくなるため透析や移植が必要になってしまいます。

また、腎臓は他の臓器とも密接な関係があり、腎臓の機能が低下するとより心血管疾患を生じやすくなることがわかってきております。

すなわち腎臓を守ることは生命を守ることにつながることになります。

当科では腎臓自体の疾患はもちろん、高血圧、糖尿病、膠原病など全身性の疾患による腎障害もカバーいたしております。

### 対象となる患者さん

- ① 健康診断等で尿異常を指摘された方
- ② 腎機能障害を指摘された方
- ③ 血液透析・腹膜透析・移植が必要といわれた方

#### ① 健康診断等で尿異常を指摘された方

早期に当科を受診することをお勧めいたします。

健康診断で指摘された場合の大部分は自覚症状に乏しく、何故受診しなければならないかとお思いの方が多いと思います。腎臓は‘silent’な臓器であり、自覚症状がでるのはかなり進行してからになることが多いのです。

このため以前から指摘されていたにもかかわらず自覚症状がないから、と放置し、やがて倦怠感等の自覚症状が出現し、病院を受診した際には、‘もうあなたは透析が必要です’といわれるケースが少なくありません。

早期治療ができれば完全に治癒する病気であっても、時期を逸すると全く治すことができなくなってしまう、これが腎臓病の特徴ともいえます。

前回の健康診断では大丈夫だったのに、今回の健診で初めてひっかかった… その時が受診の最善のタイミングです！ 逃して後から後悔することのないようにしましょう。

#### ・「尿蛋白」のみ指摘された方

尿蛋白を指摘された場合、まず早朝尿にて再検査を行う必要があります。

起立性蛋白尿といって、朝起きてすぐの尿は問題ないのですが活動した後の尿を検査すると尿蛋白が陽性となる場合があります。特に小学生～高校生に多く、活動後の尿蛋白が極めて多い場合もありますが、運動制限にて消失することが多いとされています。

早朝尿にても蛋白尿が陽性であれば、蛋白尿の定量を行います。

まずは早朝尿での尿蛋白の量と尿中のクレアチニン（Cr）という物質を測定することで、一日あたりの尿蛋白の量を推定することができます。これが0.5g（正常値は0.2g以下）を超えるようであれば、腎疾患の可能性が極めて高くなります。

蛋白尿の量が0.5gを超える場合は疾患により治療方針が異なるため、確定診断をするために腎生検が必要となります。

#### ・「尿潜血」のみ指摘された方

尿潜血のみの場合は、年齢・性・体重によって方針が異なります。

基本的には尿潜血単独の場合、腎予後は良好であり腎生検の適応はありません。

但し、特殊な病態や癌等の疾患にみられることがあるので注意は必要です。

遺伝性の疾患の頻度が多いため、家族の方で腎疾患がないかを確認する必要があります。

小学生～高校生位までは、家族に遺伝性の腎疾患の方がいなければ問題とならないことが多いのですが、血尿の程度が強い場合は精査が必要です。

成人では腎疾患に加え、下部尿路疾患（癌、尿管結石、尿路感染症等）による可能性を疑います。特に肉眼的血尿といって尿が真っ赤な場合には繰り返し検査をする必要があります。

#### ・「尿蛋白」と「尿潜血」両方を指摘された方

両者を指摘された場合、腎疾患である可能性が極めて高いです。

この場合様々な腎疾患が想定され、それぞれの疾患、また進行度によって治療方針が異なってくるため腎生検を行って確定診断をする必要があります。

#### ・検査・治療方法

腎生検は実際に腎臓に針を刺して組織を一部採ってきます。これを顕微鏡で観察することで疾患が何であるかを見極めることができ

ます。多少の出血はありますので、安全のため当院では生検後2日間は入院していただいております。

腎生検で疾患が何であるか確定し、その進行度にあった治療を開始します。主にはステロイドという薬での治療になりますが、長期に大量投与を続けると様々な副作用を生じますので、できるだけ最小限・短期間になるように、場合によっては免疫抑制剤という薬を追加いたしております。免疫抑制剤を用いる際、当院では薬剤の血中濃度を測定することで適正な使用量を決定しております。

#### ② 腎機能障害を指摘された方

一般的に腎機能は血液検査でCrを測定することで推測しております。大まかにはこの数値が1以下は正常で8を超えると透析等が必要になります。このCrが1.5～2を超えてしまうと、数値が元に戻ることはまず望めない状態となってしまいます。本来はそうならないうちに治療をすることが望ましいのですが、残念ながら進行が止められなかった場合等はこの数値をできるだけ上がらないようにする治療が主体となります。

この場合、血圧、コレステロール、血糖、尿酸といった生活習慣病を厳密に治療することが大事です。食事・運動を適切に行い、過体重にならないように心がける必要があります。元々の病気の種類にもよりますが、これらを適正に治療することで、数年以内に透析が必要になるところを5年、10年と先延ばしに出来ることがあります。

#### ③ 血液透析・腹膜透析・移植が必要といわれた方

Crが上昇してしまった場合は、腎臓の機能を代替する治療方法を選択する必要があります。どの治療を選択するにあたっては準備期間が必要となってきますので、自覚症状がほ

とんどない状況であってもCrが4～6程度に上昇した時点で選択することが必要になります。

それぞれの治療には様々な違い(図1)があります。また個人の生活環境等にあった治療を選択する必要もありますので、よく主治医・看護師・移植コーディネーター・ソーシャルワーカー等と話し合っ決めていくことが重要です。上手に治療方法を選択することで、よりよい生活をおくれるように手助けをさせていただきます。

当院では腎臓移植も積極的に行っており、可能であれば透析を経ないで移植を行う先行的腎移植もおすすめさせていただいております。以前は難しいとされていた血液型が合わない腎移植でも通常の場合と同様な治療成績となっておりますので、これまであきらめていた方もお気軽にご相談下さい。

腎臓内科 伊藤 洋輔

## ■体質、体調、ライフスタイルなど、自分の状態にふさわしい最適な治療を受けましょう。

	血液透析	腹膜透析	腎移植
腎機能	悪いまま(貧血・骨代謝異常・アミロイド沈着・動脈硬化・低栄養などの問題は十分な解決ができない)		かなり正常に近い
必要な薬剤	慢性腎不全の諸問題に対する薬剤(貧血・骨代謝異常・高血圧など)		免疫抑制薬とその副作用に対する薬剤
生存予後	移植に比べ悪い		優れている
心筋梗塞・心不全 脳梗塞の合併	多い		透析に比べ少ない
生活の質	移植に比べ悪い		優れている
生活の制約	多い (週3回、1回4時間 程度の通院治療)	やや多い (透析液交換・装置の セットアップの時間)	ほとんど無い
社会復帰率	低い		高い
食事・飲水の制限	多い(蛋白・水・塩分・カリウム・リン)	やや多い (水・塩分・リン)	少ない
手術の内容	バスキュラーアクセス(シャント) (小手術・局所麻酔)	腹膜透析カテーテル挿入 (中規模手術)	腎移植術 (大規模手術・全身麻酔)
通院回数	週に3回	月に1～2回程度	移植後1年以降は月に1回

	血液透析	腹膜透析	腎移植
旅行・出張	制限あり(通院透析施設の確保)	制限あり(透析液・装置の準備)	自由
スポーツ	自由	腹圧がかからないように	移植部保護以外自由
妊娠・出産	困難を伴う	困難を伴う	腎機能良好なら可能
感染の注意	必要	やや必要	重要
入浴	透析後はシャワーが望ましい	腹膜カテーテルの保護必要	問題ない
その他のメリット	医学的ケアが常に提供される、最も日本で実績のある治療方法	血液透析にくらべて自由度が高い	透析による束縛からの精神的・肉体的解放
その他のデメリット	バスキュラーアクセスの問題(閉塞・感染・出血・穿刺痛・ブラッドアクセス作成困難)	腹部症状(腹が張る等)カテーテル感染・異常腹膜炎の可能性蛋白の透析液への喪失	免疫抑制薬の副作用拒絶反応などによる腎機能障害・透析再導入の可能性
	除水による血圧低下	腹膜の透析膜としての寿命がある(10年位)	移植腎喪失への不安

●これらの説明や比較の表をご覧になったうえで、担当の医師とも相談し、自分に最もあった治療法を考えてみてください。

図1 血液透析・腹膜透析・移植の比較(「腎不全の治療選択2009年度版」より)

## 外来診察担当一覧

(平成22年9月24日現在)

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科 血液内科	小笠原 今井 太皆今	小林(直) 木山 金谷	木山 平野 今井 松川	中田 嶋	小林(直) 小笠原 中田 金谷	今井 桂	小林(直) 太田 中田 嶋	平野 松川	木山 平野 今井 山川	皆内 桂	交代医師
消化器内科 ※3	工藤 安孫子	川村	高野	工藤	工藤 長佐古	川村	工藤	山本 ※工藤	川村	高野	
免疫療法 (完全予約制)		今井		小笠原		太田		小笠原 今井		小笠原	
糖尿病代謝内科					澤村		澤村		澤村		
腎臓内科	伊藤					伊藤	伊藤		伊藤		
循環器内科 ※4					横山		儀間				
(隔週で午前/午後どちらかの診療となります)											
外科	玉置 坂田	目黒	米川 古井/飯田 (隔週交代)	久木田	目黒 堀江	水戸 後藤/谷 (隔週交代)	小野寺 土橋	坂田	久木田 堀江	玉置	交代医師
腎臓移植外科 泌尿器科	三浦 (9:30~) ※1						三浦 (9:30~) ※1				
整形外科	東 高橋		東		高橋		東		高橋		
小児科	安田 小林(邦)		小林(良) 小林(邦)	小林(邦) 鈴木/佐野 (隔週交代)	安田 小林(邦)		※2 小林(良) (血液外来)		安田	安田 小林(良) ※2	交代医師
スリープ外来			中尾				中尾				
ペインクリニック (完全予約制)					沼澤						
歯科 (完全予約制)	関口		関口		関口		関口		関口		関口

※1 腎臓移植外科、泌尿器科は原則として予約診療になります。

※2 小児科：木曜日は血液外来・金曜日は長期フォローアップ外来、セカンドオピニオン外来のため完全予約制です。

※3 消化器内科：木曜日午後の工藤医師は15:00~16:00 ピロリ菌外来（予約制）です。

※4 循環器内科は診療時間が午前と午後隔週で入れ替わります。来院前にお問い合わせください。

◇ 医師の都合により変更となる場合がございますので予めご了承ください。

〈予約 電話受付〉 平日のみ      午前 9時00分~12時00分  
午後 13時30分~16時00分

予約専用電話 TEL 011-865-0201

注：歯科の予約は 011-865-0111 (病院代表電話) です。

- 予約の際に受診科、氏名、生年月日をお知らせください。
- 日曜日、祝日は診療をしていません。
- 土曜日は予約診療を行っていません。
- 予約がなくても診察を受けることができます。
- 診療の際に、前後の患者さんの状態で、多少時刻が変わることがあります。

## 病院紹介シリーズ (2) 臨床工学技術部

臨床工学技士は、生命維持管理装置の操作及び保守点検管理業務を行う専門職です。

生命維持管理装置とは、人の生命に関わる機能（心臓・肺・肝臓・腎臓）などの補助・代行をする装置のことで、当院には人工呼吸器・血液浄化装置・麻酔器などの機器があります。臨床工学技士は毎日これらの装置の操作と管理を行っています。

### 人工臓器治療センター業務：

主に血液透析を行っているところで、以前は血液透析センターと呼ばれていました。様々な血液浄化装置を駆使していろいろな治療を行っていることから、現在は人工臓器治療センター（AOC）と名称が変わりました。

AOCでは、主に透析業務を行っています。血液透析とは、腎臓の働きが弱くなり身体に老廃物がたまってしまった患者さんの血液をきれいにする治療方法です。

透析には、きれいな水と透析液と呼ばれる薬液を大量に必要とします。水と透析液を製造する装置の管理は、全て臨床工学技士が責任を持って行っています。また看護師と共に臨床業務も行っており、患者さんとのコミュニケーションを積極的に積み重ねています。そしてそこからより良い治療法を医師やスタッフと総合的に考え、治療にフィードバック出来る様に努めています。

AOCのもう一つの仕事にアフェレシス(※)業務があります。

当院では先進のアフェレシス治療を行っています。血漿交換・二重膜濾過血漿交換・白血球（顆粒球）除去・細胞採取・エンドトキシン吸着・薬物吸着などのアフェレシス治療があります。

これらの治療において、治療方法や治療条件・治療日程について、各科の医師やスタッフとの会議に参加し意見交換を行い、情報を共有すると共に、最善のアフェレシス治療が

提供できる体制を整えて治療に臨んでいます。最近では、免疫細胞療法という新しい治療での成分採取業務も臨床工学技士が担当業務として加わってまいりました。



AOC業務

### 手術室業務：

手術室では医療機器の保守・点検・管理業務を行っています。

麻酔や手術に欠かすことの出来ない医療機器は多数あります。これらを安全に使用するために始業時と終了時のチェックと定期点検



手術室業務

を行っています。

ほかに看護師と共に手術に必要な道具の準備したり、手術中は医師の介助を行っています。このように患者さんが安心・安全に治療できるよう医療機器の面からのサポートを日々行っています。

### ME機器保守管理業務：

ME機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、パルスオキシメーター、低圧持続吸引器、人工呼吸器、生体情報モニター）の病棟へ配置や保守点検（定期点検など）・修理を行っています。

また、安心・安全に治療を行えるように、院内でME機器の研修会（操作方法・トラブルシューティングなど）を開催し、看護師や医療スタッフの知識・技術向上に努めています。



### 内視鏡室業務：

内視鏡を担当する臨床工学技士は主に内視鏡室にて消化管内視鏡検査及び治療の準備、医師の介助を業務としています。

当院の内視鏡室では検査だけではなく、胃がんに対する治療（内視鏡的粘膜剥離術）や胆膵疾患に対する治療（胆管ドレナージ等）も施行しているため、準備や介助方法は多岐にわたり、より深い専門的知識が必

要とされます。

その他、使用機器の保守点検管理だけでなく検査、治療成績の統計処理なども行っています。

### 最後に：

当院の臨床工学技士の特色と取り組みとして、北海道内外を問わず学会・勉強会等の参加・発表に力を入れていることが挙げられます。当技術部は各分野の学会に参加することによって自己の向上や、より多くの知識と最先端の情報を学ぶために毎年数多くの学会で発表をしています。

自己の知識や技術を高めるために各認定士の資格も積極的に取得しています。

「透析技術認定士」、「日本アフェレシス学会認定技士」、「呼吸療法認定士」、「消化器内視鏡技師」等を多くの技士が取得しました。

今後も更なる知識・技術の向上に努めて、より安全で効果的な治療を安心して患者さんが受けられる様に努力していきたいと思っています。

最後に我々臨床工学技士は、「患者さんに最適な医療を提供すること」という病院の理念を基本として、これからも日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

### 臨床工学技術部

技士長 土濃塚 広樹

### ※アフェレシス：

アフェレシスとは、ギリシャ語が語源の「分離する」という意味の言葉です。血液中の特定の成分を、「除いたり」「変化させたり」「加えたり」することでいろいろな病気に対応できないかと考えられたのがアフェレシス治療の始まりです。語源である分離とは、たくさんの成分を含んだ血液を目的に応じて分離、除去したりするところから来ています。

## ♪ 秋のふれあい 大演芸会 ♪



10月5日（火）、ボランティア団体「清田ボランティアにれの会」の皆さんによる大演芸会が開かれました。

代表の佐野ヒトミさんは、5年前に北楡病院にて骨髄移植をされました。現在は通院されていて、北楡病院とは10年のお付き合いになります。

佐野さんは、今生きていることへの感謝を伝えたい。また、骨髄を提供してくれた方へ、病院へ、そして関わってくれたすべての方への恩返しをしたいという思いで「清田ボランティアにれの会」を設立されました。にれの会の‘にれ’の由来は、北楡病院の楡から来ているとのこと。

「清田ボランティアにれの会」のメンバーは、歌好きの佐野代表を始め、様々な特技を持つ仲間とともに結成されました。月に4～5回、病院や高齢者施設等でイベントを開催されています。

今回は舞台袖に仕切りを設けて、14名の出演者が次々と衣装を替え、歌やフラダンス、ひょっこり踊りや南京玉すだれなど計11演目を披露してくださいました。



## ＝ 3病棟(小児科)で夏祭りがひらかれました



金魚すくい、綿あめ、かき氷、的当て、駄菓子屋、ヨーヨー釣り、お面コーナー、スイカ割り。8月のある日、3病棟にはこんな屋台の縁日ができました。小児科の先生や看護師さんはいつもと違って浴衣やハッピー姿です。治療に影響しないように栄養科が工夫した焼き鳥やアメリカンドックもあります。少しの間病気を忘れて楽しい時間をすごしました。

## ミニギャラリーの紹介

渡り廊下に写真を展示させて頂いています。担当職員の方から写真展示のお話があった時には照れくさい気持ちもあったのですが、これまでに多くの方々より反響や励ましの温かいお言葉を頂き、このような機会に恵まれた事に心から感謝しております。

私がカメラを持って野山を歩くようになったのは2005年頃からでした。それまではたまの休日には家でゴロゴロ、完全メタボ状態の不健康な生活を送っていました。

しかし写真を始めてからは北海道の雄大な景色の移ろい、野の花や動物の息吹きに触れ、大自然からパワーをもらっています。体重も8-9kg近く減りました。

春一番に花を咲かせる福寿草、真夏の田園風景、いち早く色づく大雪山の紅葉、凍てついた朝にきらめくダイヤモンドダスト…。北海道の美しい自然は本当に魅力的です。

昨年から当院に赴任してからは仕事も忙しくなかなか出かける時間ありませんが、これからは出来る限り自然と向き合ってゆきたいと思います。

小児科 医師 鈴木大介



連絡通路のミニギャラリー

# お答えします お答えします お答えします

**Q** 入院しています。治療が終わって家に帰れるようになった時、一人暮らしなので何かと心配です。

他の病院など、どこか紹介してもらえるのでしょうか。

**A** 当院には、医療連携室という医療福祉相談の窓口があり、ソーシャルワーカーが退院後の療養先の検討や、在宅での生活についての相談をお受けしています。

ご本人やご家族からお話をうかがい、福祉制度の案内や、介護保険などのサービス利用の提案、転院の際の病院紹介などを行います。主治医・看護師などと相談しながら、安心して生活ができるように支援させていただいています。

東棟2階の医療連携室へ直接お越しいただくか、ご入院中の方は病室へ伺うことも出来

ますので、気がかりなことがあればお気軽にご相談下さい。

※医療連携室には、その他移植コーディネーターも所属しておりますので、移植に関するご相談もお受けしております。

院内9箇所に「ご意見箱」を設置しています。寄せられる投書は、設備や環境への要望や、職員の対応への苦情や感謝などさまざまです。記名で頂いたご意見へは個別に回答さしあげていますが、無記名や連絡先が書かれていない場合は、院内の掲示板（連絡通路・外来外待合室）にて回答しています。

こうして欲しい！ どうしてなの？  
ご意見お寄せ下さい。

## ご意見箱設置場所

所定の用紙でなくても構いません。

### 【東棟】

- ・ 外来外待合室 ・ 公衆電話コーナー
- ・ 1病棟デイルーム
- ・ 2、3病棟ナースステーション

### 【西棟】

- ・ AOC前 ・ 5病棟デイルーム
- ・ 6、7病棟ナースステーション



編集後記：

病院の前の環状通りは、とても表情が豊かです。夏にはバラが咲き、少し前にはリンゴが実っていました。

歩道にはななかまどがあって、今は鳥たちに赤い実を提供しています。

間もなく木々は葉を落とし冬の支度をするのでしょうか。普段気にもとめない殺風景な道路にも、あふれるような自然があると気がつきました。

松浦

## 特定医療法人北楡会 札幌北楡病院

診療科目：外科・腎臓移植外科・内科・血液内科  
消化器内科・腎臓内科・循環器内科・泌尿器科  
小児科・整形外科・麻酔科・放射線科・歯科

住 所：札幌市白石区東札幌6条6丁目5番1号

TEL: 011 (865) 0111 ・ FAX: 011 (865) 9634

交 通：地下鉄白石駅5番出口から環状通り

北の方へ徒歩5分左手

ホームページ：

パソコン <http://www.hokuyu-aoth.org>

NTTドコモ <http://www.hokuyu-aoth.org/i>

au <http://www.hokuyu-aoth.org/ez>

ソフトバンク <http://www.hokuyu-aoth.org/v>